

令和7年度 学校評価表

学校教育目標	自ら学び 共に伸び続ける 三成っ子の育成 ～未来を拓く 今の自分に プラス1～	尾道市立三成小学校
--------	---	-----------

a ミッション	小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成	a ビジョン	危機意識から改善意識そして未来志向 【誠実・徹底・継続】
---------	----------------------	--------	------------------------------

評価計画+A7:Q19						自己評価					学校関係者評価			改善計画			
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標		f 目標値		7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値	イ	ロ				ハ				
危機意識から改善意識そして未来志向〔誠実・愛情・一丸〕	課題を解決し、主体的に学ぶ児童の育成	【学力向上部】 基礎的学力の育成	①授業改善を推進する上で、問題発見・解決の過程を重視する。	国語・算数の単元末テスト85点以上の児童割合	低学年 85% 国算	70.0%		82.0%	B	概ね達成できたが、国語科では、文章の読み取りは概ね達成しているが、語彙の少なさや、文法的な理解が不十分であった。漢字の定着は、小テストを頻繁に行っている学年では比較的高かった。算数科では、学年や単元によって、達成の状況はばらつきがみられたが、文章問題から演算決定をすることが難しい学年が多かった。	3			・中高学年では一定の成果が出ているのではないかと考えられますが、低学年の数値結果は気になります。将来的（中学年・中学校）に格差拡大に繋がらないよう、低学力傾向にある児童の支援（工夫・改善・学習意欲向上）が大切だと思います。 ・漢字は毎日漢字ドリルの宿題と間違ひ直しの反復を強化するよいと思います。また、語彙については、読書を習慣化することが大切だと思います。	国語科においては、漢字の定着や文法的な理解に課題があったので、家庭学習やドリルタイムで計画的に反復練習に取り組み、小テストで定着状況の確認を行う。また、語彙の意味が理解できているか授業の中で意図的に問うことや、積極的に国語辞典を活用していく。 算数科においては、四則計算の意味を再度確認することや、生活場面に活用できるよう指導を工夫することを通して、文章問題において、正確に演算決定を行い、問題解決ができるようにする。		
				国語・算数の単元末テスト75点以上の児童割合	中高学年 80% 国算	79.0%		99%									
			②ドリルタイム等を活用し、基礎的な計算練習を徹底する。	計算チャレンジにおいて記録が伸びた児童割合	100%	78.5%		78.5%								C	2
	規範意識をもち、自己決定できる児童の育成	【心づくり部】 規範意識や相手意識の醸成	【思いやりあふれる学級作り】 ①教師が模範となり率先して挨拶を行う。 ②挨拶をすることの良さを児童に繰り返し伝えていく。	①教師の見取りによる、気持ちのよい挨拶が実行できた児童の割合	80%	68.9%		86%	B	児童会執行部によるあいさつに関する様々な取組を経て、低学年を中心に積極的に挨拶をする児童の姿が見られるようになってきた。しかし、高学年においては、挨拶への意識が依然低い児童も多くなる。挨拶の意義について繰り返し指導していく必要がある。	3			・常に元気と笑顔をもっていれば、自然と気持ちのよい挨拶ができると 생각합니다。 ・下校時に子供達に声をかけると気持ちのよい挨拶をしてくれます。 ・「教師の見取り」だけでは、正確な評価に繋がらないのではないかと思います。	児童会執行部の取組と並行して引き続き、あいさつの意義を伝えていく。また、2学期から進んで挨拶ができる児童を全校に表彰する取組を行っていく。挨拶のモデルとなる児童が増えることで、挨拶の意識を高めていく。		
			【規範意識の高い学級作り】 ②キラキラアンケート実施時や日々の生活の場において、きまりを守る良さを児童に繰り返し伝えていく。	②児童アンケート「きまりを守れた」の項目に肯定的に答えた児童の割合	80%	82.0%		103%								A	3
	心身共に健康な児童の育成	【体づくり部】 体力の伸びを実感し、自ら進んで運動に親しむ児童の育成 健康に生活しようとする児童の育成	①体育科授業の導入、家庭学習等において、握力が向上する取組を継続していく。	①握力の向上値（4月の値をもとにする）が目標値（全国平均向上値）を超えた児童の割合	80%	21.0%		23%	D	取組を始めて約3か月しか経っていないので、達成率は21％とまだ低い数値となっている。しかし、4月よりも握力値は確実に向上している児童がほとんどである。握力向上に対する取組を各学級で行われているが、取組状況にばらつきがある。今後より充実した取組が必要だと考える。	1	1	1	・目標値を設定するときに、例えば、7月は30％、11月は80％等、設定の工夫をしても良かったのではないかとおもいます。 ・体力作りの中で握力向上をめざしたり、手伝い等の家庭での取組も入れたりすると良いのではないかと思います。	2学期から以下の3点を実施していく。 ①自己の記録の伸びの視える化に取り組み、自らの伸びを実感できるようにする。 ②強度の違うハンドグリップ数種を教室に配置し、自ら進んで運動することができる環境を作る。 ③体育授業の導入時や家庭学習でできる握力を高める運動についての研修を行う。		
			②毎月メディアコントロールデーを設定する。適宜、保健指導や保護者啓発を行う。	②各家庭で決めた「きまり（メディアの使用時間等）」を守れた児童の割合	80%	83.6%		104%								A	3
	子供を安心して通わせることができる学校作り	【教務部・総務部】 学校と保護者との相互理解の醸成	①教育内容の質の向上と内容の精選を行い、「働き方改革」を進め、時間と心のゆとりを生む。計画的・実態に応じて服務研修を行い、不祥事防止を図る。	①教職員アンケート「自分の職務に充実感をもっている」の肯定的評価の割合	90%	87.5%		97%	B	日々生起する事案に対し、組織的且つ迅速に対応することに重点を置き、児童と向き合う時間を最優先として取組をすすめてきた。 しかしながら、教諭2名の休職及び退職に伴う業務の負担や、職員の半数以上が依然残業時間45時間を越えるという実態があり、業務改善に向けた見直しが必要と捉えている。	3			・時間外在校等の問題を、人的配置の要望や書類作成の簡略化等、もっと広義に捉える必要があるのではないかと思います。 ・児童のため、先生方の日々の努力に感謝しています。しかし、無理をされていないか健康面が心配です。まずは、教職員の配置が必要と考えます。	「三成小 業務改善 わくわく掲示板！」を設置して、「こうしたらもっと効率よくできるのに」といったアイデアを募集するとともに、夏季休業期間中に、業務改善会議を行い、業務改善に向けた見直しについて、教職員で協議を行う。		
			②教職員による学校たよりやHP、コドモン等を通じて情報発信を行い、保護者の満足度を高める。	②保護者アンケート「安心して子供を学校に通わせている」の肯定的評価の割合	90%	92.7%		103%								A	3

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。